日本聖心同窓会
# JASHだより
Japan Alumnae Association of the Sacred Heart
2017 no.27

## JASH名誉会長挨拶

聖心会
日本管区
管区長
シスター
新庄 美重子
（み47、宮16）

二〇一六年の夏、聖心会では八年ぶりに総会が開かれました。これは修道会で定期的に開かれるものでその時代時代に創立の精神をどのように生きて行くかを探ります。今回は七月六日から八月十日までローマの近郊にある神言会の研修所で行われました。

今回の総会は「命の展開―これから生まれる未来に向けての使命」がテーマでした。総会は祈りと内省による識別のプロセスで進められ、多様性の豊かさと会としての「ひとつの体」を実感し味わうときでもありました。急速に変化する世界に生きる時、将来にむけてどのような準備が必要か、私たちはどのように生き、何をなすべきかを探る作業が続きました。最後に「四つの呼びかけ」としてまとめました。新しい境界の地に赴くこと、より人間的なかかわりに努めること、内的生活を深めるために静けさを大切にすること、そして会として「ひとつの体」として活動するということでした。これらを今後、会全体の動きの中で、また各々の管区の現場において具現化していくことになりました。

この結論の裏には総会の間に共有した思いがありました。その思いとは創立者聖マグダレナ・ソフィアとともに聖心会の礎を築いた聖フィリピン・デュシェーンがアメリカ大陸に渡って二百年となる二〇一八年を前にして、今の時代を生きる私たちも未知の世界に船出したフィリピンのフロンティア精神をもって出向いていく必要性を強く感じたことです。また会全体として今まで以上にひとつの体としてのつながりを大切に行動したいとの願いもありました。そして命がこれほどまでにないがしろにされている世界で、教育の奉仕においても、すべてのかかわりにおいてもより人間的なかかわりをすること、人間的なかかわりを持つ人を育てる大切さを深く感じたこともあります。私たちの生活も活動も神の心の「鼓動」を聴く内的生活の深みから出ます。そのために静けさを大切にしたいという思いもありました。

現在、二千人あまりの会員が世界の四十か国におります。そこにはソフィーの遺産を大切にされる数多くの「聖心の家族」の方々が会のミッションをともにしておられます。

JASHの皆さまもその方々です。総会は、この時代に大切であると認識したこれらの呼びかけを「聖心の家族」の方々とご一緒に実践していきたいと願いました。変化の激しいこの二十一世紀において、日本においても聖心会は皆さまともご一緒にこの世界に働かれる神の心の「鼓動」を聴きながら日々歩みたいものと念じております。

## 第16回 AMASC 世界大会

［日時］2018年2月22日（木）～26日（月）
［場所］メキシコ、メリダ

2018年2月に、4年に一度の AMASC（世界聖心同窓会）世界大会が開催されます。
メキシコが会長国となり、ユカタン半島のメリダで開催されることとなりました。
世界各地で、聖心の教育を受けた同窓生が一堂に会する稀有な機会です。
【予定されている行事】
カテドラルでのオープニングミサ、会議、講演会、各地からの報告、ガラ・ディナー

AMASC World Congress México

メキシコ有数の常夏のリゾート地、マヤ遺跡にも近いメリダで開催される
次回大会への参加をぜひご検討ください。
申込み、詳細などは JASH ウェブサイトでご案内します。

XVI AMASC World Congress
2018 Mérida, Yucatán
México

# JASH会長挨拶

日本聖心
同窓会会長
中山 洋子
（み51）

JASHの二〇一六年度は、二年前の交代期を支えた四名の役員が任期満了となりましたが、明るく意欲に溢れた新しいメンバーに恵まれ、若返りへの一歩となる新役員会として船出しました。

この一年国内では、昨年立ち上げたAMASCの現在のテーマに沿った勉強会「JASHスタディグループ」が軌道に乗り、関西の小林にも同じ趣旨に基づくグループが発足しました。其々の活動報告は今号の十一ページに掲載されております。

海外では、マリサ・デ・マルチェルAMASC会長の公約「若い世代の取込み」を目指して史上初の若者の集まりが六月にワシントンDCで開催されました。JASH代表として参加した二井綾花さん（み94宮63）の報告も十ページに掲載されております。合わせてご覧ください。

二〇一六年度を締め括る「JASHの日」にメキシコからAMASC会長の来日が決定。アジアのお仲間にも声を掛けた今回の「JASHの日」は、理事会メンバーの各同窓会と各委員会のご協力を得て盛会の内に無事終了いたしました。下段に簡単なご報告を記させていただいております。ご一読頂ければ幸いです。

二〇一四年アリゾナ大会後の約束を叶えたマリサ・デ・マルチェルAMASC会長のメキシコからの来日と、アジアのお仲間韓国同窓会KASHのチヘイ・チュン会長、ヘウォン・ユン副会長の参加を得た今年度の「JASHの日」は、三月十五～十六両日に執り行われました。

十五日は聖堂での「祈りの会」、JASHの日常を紹介する各同窓会・委員会活動報告を中心とした総会、ホスピタリティ委員会主催の昼食会と続き、久方ぶりのAMASC・アジアミーティングでは、其々の活動報告を基に情報と意見の交換を行い、AMASC加盟国の多くと同様の悩みだけでなく、アジア特有の問題を抱える姿が垣間見えました。

翌十六日は、前日の寒い小雨模様の天候とは打って変わった快晴の中を、来賓と二十名近いJASH会員を乗せたバスは富士山麓の不二聖心へひた走り。美しい自然に囲まれた「黙想の家」でシスター方に迎えて頂き、日本の聖心会の礎を築かれた初期の修道女方の墓参、充実のアーカイブ室の見学、そして聖堂では翌日の卒業式に備えて練習中の中等科生代表の英西韓の挨拶に一同感激。

夜は皇后陛下御臨席のもと、AMASC会長歓迎レセプションが催されました。和やかな歓談の夕べは来賓を始めすべての出席者にとって生涯の思い出となることと思います。

本年もまたシスター方を始め、JASH会員の皆様に支えて頂きましたことに厚くお礼を申し上げます。

# AMASC会長挨拶

AMASC会長
Marisa de Malcher

Dear Religious Sisters of the Sacred Heart, and all the Members of JASH,

To say only that I am very honored would not express how I feel now, addressing an audience that represents an Association that has proven to be so caring and responsible, a true member of AMASC and the Sacred Heart family. I do really feel very, very privileged and happy.

My nearness with AMASC is not that old and although I am a true convent girl since all my life at a Sacred Heart School was in a boarding school, I am sure not too many of you remember me from previous congresses because I only attended the one in San Luis Potosí and Malta and, it was until that same year of 2010 that I became National President of EXASAC in Mexico when my experience with AMASC began and also my sincere desire to serve the World Association and to be a more active part of the millions of worshipers as St Madeleine Sophie dreamed the alumnae would be.

I cannot remember where I heard that history inevitably runs its course, this made me think that no matter what we do we are already part of that history that began back in 1800 the 21st of November in Paris, when St Madeleine Sophie and three other women made their first religious consecration before Father Varin. Convinced that her Legacy is worth working for and that our responsibility is to share it with the world in AMASC, a project was designed to work ever more closely to the Congregation that educated us as grateful daughters and, to seek for the young alumnae and alumni understanding that they have different challenges and lives than the ones we had when we were their age. Because of that we were very happy with the meeting held in Washington last year made possible with the invaluable help of the Stuart Center.

I have read of the different committees you have as JASH Association and how well you do your jobs, but I am particularly grateful to the Tokyo Congress Commemorative Fund Committee, for I know they made possible the trip of Ayaka to Washington. She was very much appreciated from all her new friends, thank you Ayaka for representing Japan so gracefully.

All mandates have a closing note, the Congress, where the president and her administrative officers with the aid of many committees of RSCJs and alumnae, work very hard to welcome all nations to make three days of a family feast. Be sure that we will make our best to do so and that in Merida AMASC and EXASAC await you with open arms.

My time as President has been a very enriching one, I have had the pleasure of learning more of the different cultures but above all of the solidarity, respect and care among all members of AMASC. For this and for the wonderful days, I have been enjoying in your marvelous country, I have to say: thank you JASH, thank you Sacred Heart Family.

# 委員会報告

## ホスピタリティー委員会

JASH
ホスピタリティー
委員会委員長
芝本 久美子
（み59、宮28）

ホスピタリティー委員会は、AMASCホスピタリティーネットワークの一環として、大勢の会員のご協力の下、国内外のJASH会員またAMASC関係者の要望に対応できるよう、活動しております。二〇一六年度は昨年に引き続き、ホスピタリティー委員会の今後の在り方や役割について検討してまいりました。

仕事や子育てに忙しい世代の会員の方々にも気持ち良くお手伝い頂けるシステムの構築方法、また海外のAMASC会員からの要望に対してもネットで得られる情報以外の物を提供するには、何が必要なのか等について話し合っております。

また、本年度も「JASHの日」のお食事を担当させて頂き、当日はボランティアの皆さんの聖心スピリット溢れるホスピタリティーのお陰で、参加者の方々の楽しく旧交を温める姿を拝見することが出来ました。今後もホスピタリティー委員会の在り方について、JASHの皆様のご意見ご要望を伺いながら活動を続けたいと考えております。

## AMASC東京大会記念基金委員会

AMASC東京大会
記念基金委員会
委員長
三冨 久美子
（み55、宮24）

AMASC東京大会記念基金委員会は、三十年の長きに亘り世界に羽ばたく同窓生を育むことを目指して活動して参りました。この度新しい時代に対応するために若い委員の活躍に希望を託し、二〇一六年七月のJASH理事会で当委員会の解散の承認を得て、二〇一八年三月を以て基金に関わるすべての権利と責任をJASHに返納いたします。委員会発足当初AMASC大会参加者選抜を目的として実施された国内姉妹校代表者の為の合宿を経験した世代が今、新しく誕生する委員会を担うことになります。

昨年七月に開催しました恒例の「JASHヤングアラムネの集い」では、六月末にワシントンDCで開かれたAMASC初の若者の集まりにJASH代表として参加した二井綾花さん（み94宮63）の体験についての発表が、参加者の間で大きな反響を呼びました。この発表を基に若い世代による新委員会が次のステップへと臨むことができますのは喜ばしい事です。尚、二〇一八年二月開催のAMASCメリダ大会へは今回もヤングアラムネに呼びかけ、参加費用の補助を行います。若い同窓生にはぜひこの機会を生かしてほしいと願っております。

## JASH資料委員会

JASH
資料委員会
委員長
田中 郁美
（茂12、三英35）

当委員会は聖マグダレナ・ソフィア・バラの精神を継承し、現代に活かす手段の一つとして、日本の聖心の歴史を記録として保存することを目的として活動しております。二十五年間の活動を通して同窓会員より三千点を超える資料の寄贈がありました。これらの貴重な資料を引き続き整理、保管し、情報をデータベース化し利便性の向上を進める事を主な通常の活動として励んでおります。

二〇一六年度は二つの展示の依頼を受けました。四月の聖心女子専門学校「ありがとう英語科の日」、二〇一七年三月の「JASHの日」に向けて準備を進め、展示をご覧いただきました。

その他に、聖心女子大学初期制服レプリカ作成、パネル作成、ポスター作成、企画展示の際に資料を貸し出し、通年協力致しました。

また、資料委員会の刊行物、冊子「語りつぐこと」第一集、第二集を小林みこころ会東京支部同窓会にて販売し、ご好評いただきました。

資料委員会では学校生活、寄宿舎での写真、教科書、その他物品等のご提供をお願いしております。どんな小さい物でも大切な資料となりますので、処分なさる前にご一報くださいますようお願い申し上げます。

## スタディグループ委員会

スタディ
グループ
委員長
新井 協子
（み50、宮19）

二〇一八年春メキシコで開催されるAMASC大会に向けて、二〇一五年秋にスタディグループが発足しました。AMASC会長から頂いたテーマは「ソフィの遺産―世界への贈り物」。卒業生なら誰しも心に響くこのテーマに五十名近くの卒業生が集まり、聖マグダレナ・ソフィアの精神を勉強しています。

最初に聖マグダレナ・ソフィアを育んだジョワニーのパワーポイントを拝見し、更に関連図書を読んでこのテーマにどのように取り組むべきか話し合い、以下のサブテーマに沿って三つのグループに分かれました。①ソフィのお言葉②激動の時代を生きた聖女の軌跡③聖心の教育と私たち～そのスピリットの後継者たち～。

また、嬉しいことに関西でも小林聖心を中心に勉強会が発足いたしました。それぞれの活動に関しては十一ページをご参照ください。

秋の例会では、管区長のシスター新庄から、夏に開催された聖心会総会の様子と現在および将来に向けての使命について貴重なお話を伺いました。革命後の混沌とした時代の要請に応えた聖女から、私達は何を学び、何を次世代に伝え託すべきでしょうか。今後の活動についてはJASHのウェブサイトをご覧ください。

# 同窓会報告

## 茂仁香会

茂仁香会
会長
**浦 伸子**
（茂7、宮29）

就任二年目、任期を終える今、反省として思う事は、ＪＡＳＨに係る方々がどれほど沢山の議事を話し纏め上げて来られたのか過去の議事録を改めて読み直し感慨深く、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

札幌聖心は空気のおいしい自然がいっぱいの環境下、高い教育理念の元で卓越した教職員により運営されている素敵な学院です。少子化の今、卒業生としてどのように貢献していくのが大事なのか？三十年前とは存在意義が変化していると思われ今年度も大いに悩む所となりました。そのようななか、前校長様シスター田口が瑞宝章を叙勲され、卒業生としても、身の引き締まる思いで受け止めました。

今年度も粛々とあらゆる行事が行われ札幌聖心の生徒さんの愛らしい笑顔に囲まれながら恒例母の会主催友愛セールへの参加、ニュースレターの発行、名簿管理、死者ミサ参列・クリスマス・バザー参加等、心を込めてお手伝いをすることが出来たと思います。

## 真理茂会

真理茂会
会長
**山屋 俊恵**
（真21）

二〇一六年の真理茂会の活動は「継続は力なり」を積み上げるものでした。真理茂会にとりまして最も大きな活動は札幌本部では友愛セール、東京支部では宮代祭への出店です。少ない人手ではありますが、お手伝いを申し出てくださる声に喜び、心強さを感じます。そして、それぞれ小さいながらも出店を継続してきたことから「真理茂」を覚えて下さりリピートしてくださる方も増え、その方達のお顔を思い浮かべながら準備をしている自分達に驚きを感じます。また、他同窓会の皆様がなにかとお気遣いくださり顔を出して下さいます。そんな温かいサポートに同窓生の絆を実感致します。英語専攻科は休科となって久しく、当同窓会は色々と目減りしていく流れの中に在りますが、この友愛セールと宮代祭に参加することでわずかばかりではありますが母校と同窓会に報いることが出来たことに今年も感謝致します。また、今年度は父の会主催の寄宿生のための七夕イベントのお手伝いが出来ました。生憎の雨模様でしたが、素直で可愛らしい中高生の笑顔と驚く程の旺盛な食欲に聖心の未来の頼もしさと、今も変わらぬ聖心スピリットに触れ「聖心ファミリー」の心の絆を感じた一年でした。

## みこころ会

みこころ会
会長
**伊藤 康子**
（み54、三英24）

みこころ会は、二〇一六年夏休みを利用して、みこころ会の創立一〇〇周年記念事業として、活動の拠点である「みこころ会館」の内装を全面改修すると共に積年の願いでありました会館へ至る小径を歩きやすく舗装致しました。小径は修道院にお住まいのシスター方や運動場への近道として生徒達にも快適にお使いいただけて、細やかな貢献ができたのでは、と喜んでおります。

十月三十日には「みこころ会創立一〇〇周年記念ピアノトリオコンサート」を紀尾井ホールにて開催し好評を博しました。二〇一七年五月に一〇〇周年祝いの最後を締めくくる「ホームカミングデー」の開催を予定しております。

定例の活動は、五月の総会及び親睦会、六月の裾野墓参、三光会バザー参加、九月宮代祭参加、十月みこころ祭参加、十一月みこころ会追悼ミサ、二月新入会員歓迎会を五〇回生から一〇一回生という幅拾い回生の常任幹事の協力のもと滞りなく進めることが出来ました。みこころ会の要である社会福祉部は年間六回参加するバザーと共に春に講演会、秋にアイシングクッキーの講習会を好評のうちに開催し、活動資金を得て福祉に役立てることが出来ました。

## 三光会

三光会
会長
**岡田 江都子**
（ド29、三保17）

三光会は、昨年英語科募集停止を発表致しまして、保育科のみの学校になりましたが、五月末日に保育科も同様に募集停止という決定がなされました。一九六七年英語専攻科に加えて保育科を創設し、一九七六年に聖心女子専門学校として歩み始め沢山の優秀な卒業生を送り出し、社会に貢献して参りました。私達卒業生は、大変残念な思いでしたが、学校の決定を前向きに受け止め、去る四月二十三日に「ありがとう英語科の日」が催され、一回生から六十九回生まで、約五百名の方がお集まり下さり、感謝ミサ、茶話会、歴史資料展示を懐かしくご覧になり、楽しまれました。専門学校の保育者養成の精神と教えを聖心女子大学が継承して、聖心の優秀な人材を世の中に排出される事を願います。

今後、三光会はどのように、そしてどのような存続をしていくかを、これから会員の方々と全力で話し合い、より良い方向に持って行けるように頑張ります。

私事ではございますが、今年で二年の会長任期が終わります。微力ではございましたが、母校のお役に立てた事を嬉しく思います。有難うございました。

## 語学校・ISSHアラムネ

語学校・ISSHアラムネ会長
**Mayling Woo Clements**
（I'81）

二〇一六年度から私を含めた四名の任期が始まり、少しでも聖心インターナショナル・スクールのお役に立てればと思い活動を行っております。世界中の三十九カ国にアラムネが点在する中で、現在メールとフェイスブックを活用し連絡を取り合うようになっております。母国や他国での大学進学を目指して多くの卒業生が離れ離れになりますので、連絡先を随時確認することが私どもの重要な役割です。アラムネとの交流を保つために定期的に連絡を取り、プライバシーに配慮しながら情報を公開し共有していくことも大事な責任範囲です。

　六月には新年度の卒業生にも参加してもらい同窓会を開催いたします。日本に在住するアラムネを集めてキャリア、仕事、大学と色々話せる場を作り、できるだけ若いアラムネにも活動してもらうようにして行きたいと思います。

　年間を通して学校で行われる色々なイベントの中でも主にファミリーフェスティバル、ビンゴナイト、卒業式、追悼ミサでアラムネを代表して学校のためにお手伝いを続けたいと思います。世界各国に住む一〇六五名の同窓生と連絡を取り合い、いつか会える日を楽しみにしています。

## 宮代会

宮代会会長
**髙島 英里子**
（小み48、宮30）

二〇一六年度、宮代会は聖心女子大学震災復興チャリティデー参加、宮代祭、追悼ミサ、総会などの行事を多くの同窓生のご協力のもと無事終了する事ができました。また留学生昼食会開催、奨学金給付、学術助成金を通して母校を支援し、年末には各種団体に援助金を寄付いたしました。世代を超えて心が一つとなり物事を成し遂げる聖心の伝統が見事に息づく同窓会活動の中、特に卒業後間もない回生の皆様がお力を発揮してくださる事をとても心強く感じております。各支部を訪問し、支部の皆様の活動や交流に触れた事も大変有意義でした。海外支部でも交流の輪が広がるよう願っております。

　大学は昨年の創基一〇〇周年を期に次の時代に向けての環境整備に着手なさいました。「グローバル教育環境整備募金」を立ち上げられ、宮代会としてもチャリティ公演開催などさまざまな形での支援を考えております。

　今年度宮代祭は九月九日（土）に開催いたします。姉妹校の皆様のご参加をお待ちいたしております。会員交流の行事やお知らせは随時ウェブサイトに掲載いたしております。

　ＪＡＳＨの一員として課題を共有し聖心の輪を広げてまいります。

## ドゥシェーン会

ドゥシェーン会会長
**高橋 由梨**
（ド23）

富士山裾野の不二聖心。聖心ネットワークを実感する聖心大。両所で個性豊かな十六名が活動しています。昨年五月第六十回総会で大竹前会長の後を受け会長に就任致しました。

　産官学協働企画推進・アーカイブ室充実・お茶室新築等々、母校の今後を支援する活動を開始。同時に聖心や不二の長い歴史を再認識し、情報発信の大切さを感じました。

　総会では東北被災者支援の為のご寄付を募りました。幹事会にはシスター新庄にお話を頂き、大学の食堂がひととき聖心スピリットに充ちました。ご寄稿や学院の様子をお伝えする内容を載せた会報は十月にお届けしました。十一月第五十回秋のつどいでは懐かしい皆様と絆を大いに深めました。企画制作に半年かけたグッズが大好評で一同安堵しました。

　深秋の追悼ミサは前日が雪となりましたが、ご遺族ご友人や生徒さんと心を一つにして祈りをお捧げ致しました。十二月のクリスマスキャロル、高校三年生の卒業と入会式等の様子は、是非リニューアルしたＨＰをご覧下さいませ。今後も教育環境に恵まれた母校を応援し、会員の絆を更に強くする活動を心がけて参ります。不二聖心同窓生の皆様のお帰りを心よりお待ちしております。

## 小林みこころ会

小林みこころ会会長
**津田 由貴**
（小み47）

任期二年目となった二〇一六年度は、より積極的に同窓会活動に取り組むことが出来ました。

　五月の総会は、懇親会担当学年（六十歳を迎える学年）が国の登録有形文化財に指定された校舎とその時代を生きた人たちを歴史と共に振り返るプログラムを企画し、好評を得ました。また今年も学院が宝塚市と共催で校舎を一般公開し、お茶室でのお接待を担当しました。見学者の感動の声を伺い素晴らしい環境で学ばせていただいたことを再認識する機会となりました。

　追悼ミサは、天に召されたシスター、先生、同窓生のご遺族とご友人が参列され、大切な方々との思い出を胸に抱きながら心をひとつにして祈りを捧げました。クリスマスバザーは、同窓生の再会の場として、また寄付事業の活動資金の為に力を入れております。今年は会場配置や出店者の募集に工夫を加えました。二月には夢と希望に輝く八九回生を新入会員としてお迎えしました。

　同窓会は人材の宝庫です。各々が小林の丘で育んだスピリットを社会や家庭で活かしています。これからも学院と同窓会が協力しながら大きな家族としてしっかり繋がっていくことを願っております。

## 日本国内の聖心姉妹校のフェイスブックページをご存知ですか？ぜひご覧ください。

学校法人聖心女子学院教育ネットワーク
Sacred Heart Seven Sister Schools

https://www.facebook.com/SeishinNetwork

「共生」「姉妹校連携」「東日本大震災」
「児童・生徒・学生募集」を
キーワードとして7校の情報を発信しています。

## 聖心女子大学

英語英文学
日本語日本文学
哲学
史学
人間関係学
国際交流学
心理学
教育学
初等教育学
大学院
修士課程／博士前期課程
博士後期課程

http://www.u-sacred-heart.ac.jp
https://www.facebook.com/SeishinDiary

## 札幌聖心女子学院中学校・高等学校

2014年度より
文部科学省「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」指定校

少人数だからこそできる、一人ひとりに目が行き届く家庭的な教育。
札幌聖心の英語教育や課題研究の実績を生かし、英語のコミュニケーション能力と豊かな国際感覚を身につけた生徒を育て、国際社会と地域社会に貢献する女性の育成を目指します。

**ソフィア・サイエンスクラス （定員40名）**
**グローバルクラス （定員20名）**

※敷地内に寄宿舎を完備。学校・寄宿舎の見学は随時可能です。事前にご連絡ください。

〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条6丁目10-1
TEL.011-611-9231 FAX.011-612-0980

説明会等の日程はホームページをご覧ください。
札幌聖心 検索

学校法人聖心女子学院
## 不二聖心女子学院 中学校・高等学校
Fuji Sacred Heart School Junior High School & High School

富士山の裾野に広がる21万坪のキャンパス。
4割が寄宿生。16都府県から生徒が集います。
帰国生の転編入も積極的に受け入れています。
不二聖心 検索

## 聖心女子学院

**多様に グローバルに より良く生き抜く**

**2017年度入学試験**
- ◆初等科１年入学試験
- ◆初等科５年転入・編入試験
- ◆中等科１年帰国生入試

詳細は、学院ホームページでご確認ください。
URL
http://www.tky-sacred-heart.ed.jp
http://www.facebook.com/SacredHeartSchoolTokyo/

## 小林聖心女子学院　小学校・中学校・高等小学校

*Big You, small i*
**心を磨く 12 年間の一貫教育**

**◆入試情報**
小1入試（A 日程・B 日程） **2017 年 10 月**
小転編入試（新小 2～新小 5 年生） **2018 年 1 月**
中1入試（A 日程・B 日程） **2018 年 1 月**
中高帰国子女入試・転編入試 **2017 年 7 月／2018 年 1 月**

説明会や公開行事についての情報は、本校 WEB でお確かめください。
ブログ、フェイスブックも日々更新中。
小林聖心 検索

〒665-0073 兵庫県宝塚市塔の町 3-113 TEL：(0797)71-7321 FAX：(0797)72-5716
WEB：www.oby -sacred -heart.ed.jp www.facebook.com/ObayashiSeishin

## 聖心女子専門学校
保育科

**2年間で幼稚園教諭二種免許、保育士資格同時取得可**

- ◆実践力を重視した教育課程を編成して保育者としての力を養います。
- ◆大学・短大の既卒者・社会人経験者多数在学中。
- ◆文部科学省指定・厚生労働省指定

※ 聖心女子専門学校では、平成29年度入学生から、保育科の募集は行っていません。

〒108-0072 東京都港区白金4-11-1
TEL 03-3442-8649
URL http://www.sen-sacred-heart.ac.jp

# 2016年度 JASHの1年

## 1 役員会

定例役員会　毎月　第2火曜日　全11回
臨時役員会　随時開催

## 2 理事会

奇数月　第3火曜日　全6回

## 3 会長、副会長の各同窓会総会等出席

全9回

## 4 聖心会学校法人関係出席

聖心女子大学パレス補修工事竣工お披露目式
聖心女子大学創基百周年記念式典
聖心女子大学グローバル教育環境整備募金委員会
定例評議員会（2回）
聖心インターナショナルスクール卒業式
聖心女子大学卒業式

## 5 JASH スタディグループ（2015-2018）

第3回ミーティング（2016年 4月26日）
第4回ミーティング（2016年 6月28日）
第5回ミーティング（2016年10月25日）
第6回ミーティング（2017年 2月28日）

## 6 プレゼンテーション

宮代祭（2016年9月10日）
みこころ会新入会員歓迎会（2017年2月24日）

## 7 登録ボランティアの活動

「JASHの日」準備・当日進行・後片付け
（2017年3月14～16日）

## 8 JASH 主催行事

第31回「JASHの日」
（2017年3月15日　於 聖心女子大学）
AMASC 会長歓迎レセプション
（2017年3月16日　於 国際文化会館）

## 9 AMASC・その他

AMASC 中間役員会出席（2016年6月27日）
AMASC International Youth Meeting 参加
（2016年7月1日）
AMASC Newsletter への寄稿
（2016年8月4日）
JASH グッズ販売、復刻版 CD 制作・販売、
ネックストラップ制作

### 2016～2017年度役員

| | |
|---|---|
| 会　長 | 中山　洋子（み51） |
| 副会長 | 原科　節子（み51・宮20） |
| | 小澤志津子（み57・宮26） |
| 書　記 | 赤松　久子（み60・宮29） |
| | 佐々木麗子（宮41） |
| 会　計 | 汐見久美子（ド19） |
| | 六本木真美（小み52・宮34） |
| 監　事 | 林　美穂子（I'88・宮42） |
| | 中川　和子（I'77・宮31） |

2016年理事

## JASHボランティア募集

**【お手伝いいただく内容】**
**「JASHの日」などイベントの手伝い、翻訳、海外からの会員の案内、通訳、車での送迎、宿泊提供など。**

JASHの活動のお手伝いをしてくださるボランティアを常時募集しています。
申し込みは、JASHウェブサイト「JASHボランティア募集」より

## 古切手を集めています！

AMASCでは各国の同窓生から古切手を集め、スペインの同窓会が古切手市場で換金してAMASCの活動に役立てています。
JASHも皆様から集まった切手を、毎年スペインに送っています。
地道ですが、AMASCにつながる活動です。ご協力をお願いします。
使用済切手の周囲5ミリほどを残し、JASH事務室までお送りください。

## 資料委員会の刊行物

年表
「日本国内聖心女子学院の歩み」
2008年改訂版 1冊1,500円

「語りつぐこと」
第1集、第2集
1冊700円（郵送の場合は1冊1,000円）

**お申込み・お問い合わせはFAX、JASHウェブサイトで日本聖心同窓会JASH資料委員会まで**

（宮代会館への電話でのお問い合わせはご遠慮ください）

# AMASC「IYM(ヤングアマスクの会)」参加報告

二井　綾花（み 94、宮 63）

二十五歳――。大学を卒業し、働き始めて数年が経つ頃、誰もが一つの節目を感じる年齢なのではないだろうか。学生時代に抱いていた理想と、社会人の現実の狭間で、共に学んだ友人たちがそれぞれ結婚したり、転職したり、自分の道を力強く歩み始めていることに焦りを感じるときもある。様々な葛藤を抱えながら、大人の女性へと向かうこの時期に、今回の AMASC International Youth Meeting に参加させていただいた。若い世代に活躍の場を与えるという AMASC のマリサ会長の方針のもと、初めての試みで開催が決まったこのミーティングが、次の節目に向けて何か良い影響をもたらしてくれるような予感がした。

自らがみこころ何回生で宮代何回生なのか把握していなかった私が、JASH や AMASC といった同窓会の繋がりに関心を抱くようになったのは、「JASHヤングアラムネの集い」に参加してからである。母の代わりに参加した際、絵本作家の児島なおみさんの講演を拝聴し、様々な同窓生とお話しする機会に恵まれた。改めて聖心は一つの大きな家庭であることを感じたのと同時に、お世話になった母校に恩返ししていきたいという気持ちが強くなった。そうした気持ちと予感が重なり、ぜひ参加したいと思った。

参加資格が二十五歳までということもあり、不思議な力に導かれるように開催地であるワシントン D.C. へ向かった。「聖心の卒業生であること、その恩恵と責任」というテーマのもと、カナダ、アメリカ、オーストリア、メキシコ、ドイツ、ペルー、日本から卒業生が集まり、様々なプログラムが企画された四日間を共に過ごした。聖心の教育が自分に与えてくれたギフトとは何かを話し合った際には、どの卒業生からも Courage/Respect/Confidence/Intelligence/Generosity といった項目が挙がり、世界中に創立者の思いを受け継いでいる仲間たちがいることに感動を覚えた。

事前準備の段階からミーティングを終えるまで、聖心で過ごした日々を振り返るなかで一番感じたことは、点と点の繋がりである。今まで経験したことを「点」としたら、それぞれの点が今回のミーティングで役立ったり、今の自分の仕事につながっていたり、過去に目を向けて初めて今や将来が見えたような気がした。まさにスティーブ・ジョブスがかの有名なスピーチで語った Connecting the dots である。焦らずに遠回りをしたとしても、いつか何かと結びついて繋がるかもしれないと信じながら、「点」を集めていきたいと思う。

## 海外における「日本聖心同窓会（JASH）会員の集い」

世界各地に日本の聖心同窓生が暮らし、地域ごとにグループを作って親睦を深め、助け合っています。その中でも、右記の地域には、「JASH 会員の集い」があり、JASH はグループの代表者の連絡先を管理しています。また、宮代会海外支部（シンガポール、ワシントン、南カリフォルニア）でも、JASH会員が一緒に活動しています。

海外生活を始める方は、渡航前に、ぜひJASHにお問い合わせください。
代表者の連絡先をお知らせします。

| 海外「JASH会員の集い」の所在地 | |
|---|---|
| アメリカ合衆国 | ニューヨーク |
| | サンフランシスコ／ベイエリア |
| | シカゴ |
| | アリゾナ NEW |
| 英国 | |
| フランス | パリ |
| ドイツ | |
| オーストラリア | シドニー |

※上記以外の地域で活動されている同窓生のグループがありましたら、JASH にご登録ください。「JASHだより」やJASHウェブサイトで、グループの存在をJASH会員に広くお知らせし、新しく渡航される同窓生との橋渡しをします。
※各地の活動報告は、JASHウェブサイトに掲載しています。

# JASH スタディグループ 報告会

## 第 1 グループ

第一グループは、聖マグダレナ・ソフィアの遺されたお言葉を集めた日めくりカレンダー（英語）の日本語訳を「ソフィのお言葉」として作成しています。365日分のお言葉の翻訳を分担し、共有する訳から、“ソフィの遺産”として私達に遺されたメッセージを読み解いています。私たち卒業生がソフィから受け継いだスピリットを実感して思いを深くする作業は大変意義深く、改めて私たちの受けた教育に感謝し学びを続けています。

境家 万里子（み83）記

## 第 2 グループ

聖マグダレナ・ソフィアの生涯を追うと、フランス国内のみならず国境をも越える旅を繰り返していることがわかります。私たちのグループは、時代背景を踏まえて、聖女の数々の旅とその目的を辿っています。

旅という切り口から、激動する社会の中で組織を運営、発展させた聖女の生涯を振り返り、身をもって示された遺産を考察していきます。

唐澤 明子（み67、宮36）記

## 第 3 グループ

私たちはサブテーマを「聖心の教育と私たち～そのスピリットの継承者たち」と定め、ソフィの目指した教育が私たちの中でどう活かされているのか、次の世代に何を伝えていくべきかを探っていきます。まず、身近で活躍されている聖心のスピリットを生きておられる卒業生の方々を各自が紹介し、分かち合うことから始めました。今後少し人数を絞って、その方々の生き方を何らかの形で学ばせていただきたいと考えています。

野本 敦子（小み48、宮 30）記

## 関西支部

関西在住の私たちが、世界聖心同窓会の一員であることを認識する場が少ない為、スタディグループを再開しました。山内由賀さん（小み 77、宮 59）に今期のテーマに沿って講演して頂き、建学の背景と精神を学びました。またシスター景山に小林聖心の歴史を伺い、多くの方々が創立者の意思を大切に継ぎ、女子キリスト教教育を育んでいることを認識しました。現代を生きる女性達にソフィならどのような言葉をかけて下さるのか想像しています。

小角 裕美（小み 50）記

## JASH Website

JASH に関する情報を
いち早く掲載しています。
ぜひ、ご覧ください。

jash316 検索

URL http://www.jash316.com/

## AMASC ウェブサイト

AMASC執行部からの最新の情報のほか、
世界各地の同窓会の活動がわかるNewsletterや、
世界の姉妹校の所在地など、
幅広い情報が掲載されています。

URL
http://www.amasc-sacrecoeur.org/ AMASC 検索

# 写真で綴る JASH の日（2017年 3月 15日～16日）

## 3月15日

祈りの会

総　会

AMASC 会長

昼食会

ビュッフェ・ランチ

資料展示

ミニバザー

パレス見学

アジア・
ミーティング

## 3月16日

墓　参

裾野
（不二聖心）
訪問

アーカイブ室見学

レセプション

発行日 2017年3月31日
発行所 日本聖心同窓会(JASH)
発行人 中山 洋子
編　集 JASH役員
住所 東京都渋谷区広尾4-3-1　聖心女子大学 JASH事務室
FAX 03-3407-0671
制作 (株)梁プランニング